

本当の国際理解とは

田ヶ谷雅夫（峡東地区）

会員の皆様ならたぶんお読みになっているでしょうが、蛇蔵&海野凧子(すごい仮名!)著「日本人の知らない日本語」は、とてもおもしろいです。（シリーズでもう5冊出ている。メディアファクトリー出版）

ある日本語学校の女性教師の授業場面でのドタバタ喜劇なのですが、本のオビに「大爆笑の日本語バトル、200万部突破、テレビドラマ化決定！」とあるのですから、その人気のほどが知れます。登場する外国人学生たちがまた実にユニーク。真剣に日本語学習にとりくんでいるからこそ出てくる数々の珍問・奇問。読んでいて「ん、そうか。外国人ならそう来るか！」とうなずけるシーンがたくさんあります。言語構造だけでなく、各国の文化構造に目を向けないと、うまく学習が進みません。いい発想の転換になりました。

フランスがら来た美人のマダムは、大の日本製ヤクザ映画ファン。屋台のおでん屋のノレンをくぐって「コンニャクください」と頼んだら、「置いてないんだよねえ」。とのつれないオヤジの返答。コンニャク.を頼んだのですが…。

またロシア娘のダイアナさん。「先生、お世話になった人に肉体をあげたいです！」ええっ！…実は「肉体」でなく「ネクタイ」でした。よかった…。そう言えば私が担当している某国の中年女性が、「子供のキンタマがおかしいです」と言うので、のけぞりました。どこで誰に聞いてきたのか。それでいて彼女は温泉旅行でどうしても皆と入浴できないそうです。同性ばかりなのだからいいじゃないのと言っても、「だってえ、恥かしくてえ」と身も世もあらぬ風情です。

私は日本語ボランティアを始めてまだ5年ですが、学習がすごく楽しいです。授業はいつも3部制です。まず最初はウォーミングアップで、雑談。とりあえずシーズンの日本生活文化を紹介します。七夕ならば小笹を持って行って、短冊に「私のねがい」を書いてもらって、軒端に飾る。お正月が近づけば百人一首で「坊主めぐり」をやるとかです。(坊主めぐりは、なかなかウケました)

第2部では日本語能力試験の問題集でマジな日本語学習。(をやらないと気がし済まないらしいです) それから第3部はドリル。相手の能力に応じて小学校低学年の市販のワークブックをやったり、N2やN1をめざす人には100ページ位の文庫本を読み通すとか。

5年も続けてつき合っていれば、相手の心情に結構入りこむようになります。それがいいのが悪いのか、悩みます。20年も甲府の食品工場ですっとパートで働いていて、その間一度も昇給ナシなんて、ひどい搾取だと憤りながらも、私にできることは限られています。

それにしても、私は「無料の日本語講師」とだけ利用されるのにも、やはり抵抗感があります。ボランティアの日本語の先生はいい加減で頼りにならないので、日本語学校に入学したという中国人妻のコミックを前に読んだことがあります。日本語学習に徹するのか、国際理解を錦の御旗とするのか、まあ相手の事情にもよるでしょうが、むずかしいところです。

ただ、これだけは言えます。この会に加わって外国人とおつき合いできて、すごくトクをしたということです。結局日本語学習を通して外国人との相互理解のむずかしさ、むしろ相手との異質性を認識することが、ほんとうの国際理解の姿なのだと思えたような気がします。まだまだ未熟な私、これからも楽しく充実した日本語学習が続けられたらとねがっています。